



私の声を地域に活かす ～地域防災に男女共同参画の視点を～



静岡県静岡市女性会館
萩原 美栄子

1 女性が地域で力を発揮するために

大規模災害が起こるたびに、地域防災に男女共同参画の視点を取り入れることの重要性が示されてきました。2018年から静岡市女性会館が実施しているJo-Shizu防災講座では、防災の知識やスキルを習得する以上に、受講した女性や地域防災に関心のある女性が地域で力を発揮しやすくなることを目的の中心に置き、地域と連携したプログラムを行っています。

2 女性が地域防災に参画する難しさ と自主防災組織が抱える課題

2018年にJo-Shizu防災講座を始める前年、自主防災会の役員になった複数の女性から「活動したくてもうまくいかない」という話を聞きました。静岡市では自主防災会と自治会の組織がほぼ同一であることが多く、ベテラン男性ばかりの組織の中に、新参者の女性が加わって意見を対等に交わす難しさがあるようでした。

2019年に静岡市内の連合自主防災会と単位自主防災会対象に『自主防災会に関するアンケート』を実施すると、その結果から

は次のような課題が浮き彫りになりました。

- ・ 自主防災会のリーダーは70代男性が中心で女性リーダーはわずか3%
- ・ 連合自主防災会のうち、48%の組織に女性がいない
- ・ 単位自主防災会の防災役員や委員に3割以上女性がいる組織は17%のみ
- ・ 役員等のリーダーの担い手不足を感じている連合自主防災会は57%、単位自主防災会では61%

3 講座名に込めた想いと目標

Jo-Shizu防災講座「私の声を地域に活かす」は、元静岡市男女共同参画課長で当時の駿河区長から「女性の防災人材育成講座を協働・共催で行いたい」という声掛けからスタートし、2019年からは市内全域を対象に静岡市女性会館が単独開催しています。「身近な地域の防災・復興活動に、主体的に参画できる女性を育て、同時に女性が地域で力を発揮できる土台作りをする」と目的を定め、受講生が目指す目標を下記の通り設定しました。

①防災分野に女性の視点、男女共同参画の



地域防災への女性の参画の必要を学ぶ



災害時の性被害を防止する話し合い



地域の防災メニューを考える

視点が重要だと理解する

- ②自治会、自主防災組織で主体的に活動するきっかけや情報を得る
- ③地域社会で女性が意思決定の場に参加・発言できるようになる
- ④地域防災に関心のある女性たちが緩やかなネットワークをつくる

4 プログラムの工夫

一般的な防災講座の内容は敢えて外して4つの目標を達成するための内容に集中し、2018年から毎年少しずつ改良を加えています。以下は2021年度のプログラム（5回連続）です。

第1回

「過去の経験に学ぶ 災害に強い地域づくり」

（公開講座、男性も参加可）

男女共同参画の視点での防災の取り組みの必要性や、女性が地域防災に関わる必要性を知る。

第2回

「備えよう！地域に話し合いのマナーを」

地域活動に参画するために、ファシリテーションスキルを学ぶ。

第3回

「やってみよう！HUG（避難所運営ゲーム）

「家族や大事な人の命を守るために」

男女共同参画の視点のあるHUGに取り組み、発災後の困難と混乱をイメージする。



避難所運営をシミュレーションする

第4回

「地域防災、私たちができること」

自主防災会役員や地域防災に関わるリーダーと一緒に「住民が参加したくなる地域防災訓練の内容を考案する」などのテーマで、話し合う。

第5回

「私の声を地域に活かす 地域活動への扉」

既に地域防災の活動をしている女性ゲストの話聞いた後、これからどんな防災活動をするか、地域に参画する糸口をどう作るかなどを話し合う。

5 女性たちの声を地域に活かす

講座を通して、

- ・受講生が連合自主防災会長など自主防災会や自治会の役員になった。
- ・地域で任意の防災グループが複数立ち上がった。
- ・各区の地域総務課に受講生が気軽に相談に行くようになり、行政への防災講座の依頼が増えた。
- ・2022年台風15号による水害で、多くの受講生たちが地域や災害ボランティアセンターを通じた災害支援に関わった。

などの成果が少しずつ表れています。これからも、男女共同参画の視点を持った地域の担い手が増えるよう、女性たちが一歩を踏み出すためのサポートを続けていきます。